

【概況】<サウジアラムコOSPを引き下げ~米英軍がイエメンのフーシ派軍事拠点を空爆>

●5日、パレスチナ自治区ガザでのイスラエルとイスラム組織ハマスとの武力衝突を背景にレバノンのイスラム教シーア派組織ヒズボラとイスラエルの交戦や、イエメンの親イラン武装組織フーシ派による紅海周辺での商船攻撃などで緊張激化への懸念が広がる中、原油供給の混乱を巡るリスク警戒感が根強い。地政学プレミアムの増大による相場の先高観も浮上し相場は73.81ドルへ反発しました。

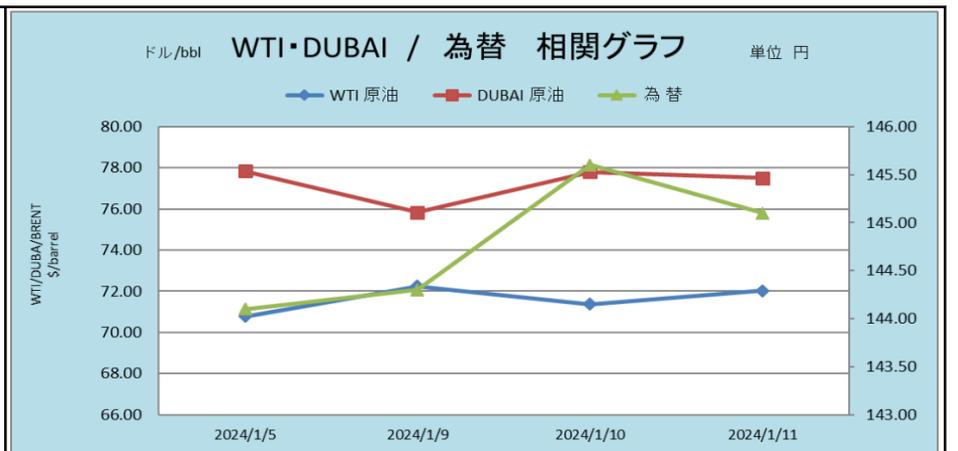
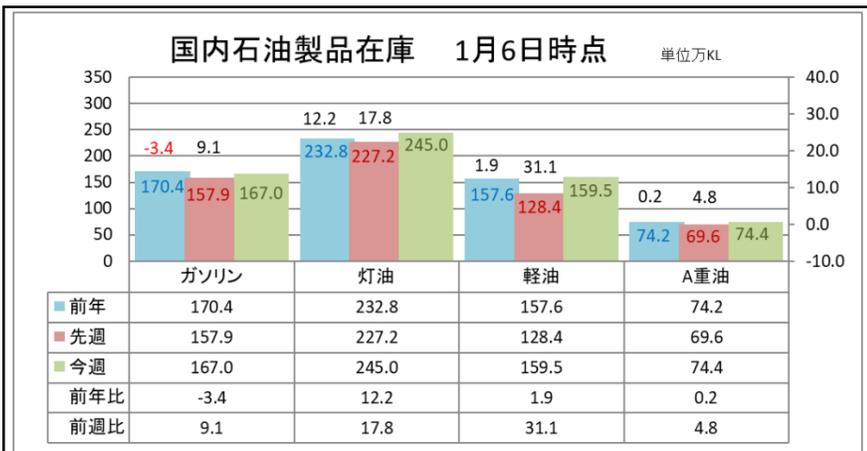
●8日、サウジアラビア国営石油会社サウジアラムコは7日、主要油種アラブ・ライト原油の2月のアジア顧客向け公式販売価格(OSP)を大幅に引き下げ、2021年11月以来の水準に設定。これを受け、中国などの需要が鈍化しているのではないかと警戒感が広がった。また、23年12月の石油輸出国機構(OPEC)の石油生産が前月比で日量7万バレル増加。イラク、アンゴラ、ナイジェリアの産油量が増え、サウジなどの減産分を相殺したため相場は70.77ドルへ大幅反落しました。

●9日、イスラエル軍の報道官は今週に入り、ハマスとの戦闘について「戦いは今年中続く」と長期戦も辞さない構えを強調した。中東危機を巡る地政学リスクが高まる中、原油相場は買いが先行、堅調地合いを維持し相場は72.24ドルへ反発しました。

●10日、米エネルギー情報局(EIA)が午前発表した5日までの1週間の米石油在庫統計によると、原油在庫は前週比130万バレル増と、市場予想(70万バレル減=ロイター通信調べ)に反する積み増しとなった。これを受け、需給の緩みが意識され、原油は売られた。欧州の景気先行き不透明感もエネルギー需要減退の懸念につながり、相場は71.37ドルへ下落しました。

●11日、イエメンの親イラン武装組織フーシ派による中東の紅海周辺での商船攻撃が続く中、イラン国営メディアは、同国海軍が11日、オマーン湾を航行中の米石油タンカーを拿捕(だぼ)したと発表したと報じた。フーシ派の紅海での商船攻撃を巡っては、プリンケン米 국무長官が10日、「結果を伴うだろう」と再び警告したほか、国連安保理が10日、攻撃を直ちにやめるよう求める決議を日米など11カ国の賛成多数で採択。中東情勢の悪化に伴うエネルギー供給混乱への懸念が再燃し、相場は72.02ドルへ反発しました。

1月12日 | 16:00現在 | WTI原油 | 73.59ドル | 為替 1ドル | 146.32円



	次回元売変動予測	
	1/18~	元売変動予測
ガソリン	→	-0.7~-0.2
灯油	→	-0.7~-0.2
軽油	→	-0.7~-0.2
A重油	→	-0.7~-0.2
LSA	→	-0.7~-0.2

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-0.5円」、補助金は、「-15.0円・60%」、都合「-1.7円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの9日時点の小売価格平均は175.5円となっております。

《1月13日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「+1.0円~+1.5円」、激変緩和補助金は「-16.7円・60%」の見込みで、都合「-0.7円~-0.2円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「+1.0円~+1.5円」
 ※激変緩和補助金「-16.7円」 前週比-1.7円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<住友商事、国産バイオ燃料を量産 脱炭素へ年100万トン>

住友商事は国内でバイオディーゼル燃料の量産を始める。2025年をメドに東京大学などと連携して実証プラントを稼働させ、2027年に間伐材やサトウキビの残さを使って量産を始める。将来的に最大年約100万トンまで増やし、売上高約400億円を目指す。

ディーゼル燃料はトラックやバスなどで使われ、22年度の車向けの国内消費量は約2000万トンに上る。バイオディーゼル燃料は木質チップや廃食用油から作られる。原料となる植物の成長段階で二酸化炭素(CO2)を吸収するため、排出量を実質ゼロとみなせる。

現在のバイオディーゼル燃料は廃食用油由来で粘度が高く、国土交通省が推奨する軽油への混合率は5%程度で、国内ではほぼ生産されていない。住商は量産化に向けて、まず25年をメドに東京大学などと連携し種子島(鹿児島県中種子町)で実証プラントを稼働させ、サトウキビの残さや国内の間伐木材を活用し、重油などと混ぜてバイオディーゼル燃料にする。

実証プラントで検証し量産体制を確立し、27年以降に段階的に生産量を拡大、将来的に現在のディーゼル燃料の消費量の5%に当たる最大100万トンの生産体制を整える。

フィンランドのネステは年100万トン弱生産しており、石油大手のシェブロンもグループで量産している。

バイオディーゼル燃料の市場規模は29年に502億ドル(7兆2000億円)と24年から4割増える見通し。自動車燃料に一定量のバイオ燃料混合を義務付けている米国や税優遇が充実する欧州などで普及している。